

緑ネット通信 No.62

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000 円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

松戸のみどり再発見ツアー報告

「よみがえった戸定邸庭園と

千葉大園芸学部の洋風庭園を訪ねる」

藤田 隆

松戸市を代表する戸定が丘歴史公園の名勝旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)は平成 27 年に国の名勝に指定された。昨年 10 月のツアーでは、復元工事中の庭園を興味深く見学したが、今回は完成した庭園を訪問した。江戸から明治、激動の時代を生きた徳川昭武のころのよりどころとなっていた眺望は、なかなか魅力的だった。

大河ドラマの影響か、明治維新ブームか、昨年に続き松戸駅に集合した参加者は 100 人を超えた。挨拶の後、駅のデッキを東に進み、信号を 3 つ越えると戸定が丘の麓に到着した。県道に出たところで参加者が右手奥の高いところの緑のかたまりを指さして「戸定邸ですか?」と、「戸定邸は森に包まれていて、真中から左あたりが園芸学部との境目ではないか」と伝えた。

駐車場が新設され車で訪れる人には便利になった戸定邸は、県道からの見通しもよくなったようだ。

千葉大学園芸学部の門をくぐり、キャンパスを進むとハーブ類の花壇があった。その先にはオオヒカンザクラ、奥にはヒマラヤスギなどの針葉樹が並ぶ。学生食堂がある緑風会館のシダレカツラのところでは、甘いような、しょっぱいような香りにつつまれた。参加者は「醤油!」「カフェオレ?」と、その香りを楽しんでいた。

イタリア式庭園ではイチョウの木をくぐり、階段状になった庭園越しの斜面の上に校舎が見える様子、アレポマツに似たタギョウショウ、混ぜ垣、シンメトリックな花壇を鑑賞した。気温は 20° を下回ったが、薄日の射す天候でカタバミの繁茂するあたりにはヤマトシジミが乱舞していた。



戸定邸庭園で島村さんのお話を聞く。奥が植栽されたアオギリ

フランス式庭園は正面にベルサイユ宮殿ではないが建物があり、左右にマルバトゲナシアカシア、正面にチャボヒバ、バックにユリノキが配置され、庭園部分を掘り下げた沈床式が空間の広がりを見せる効果を担っていた。

戸定邸では戸定歴史館の島村宏之氏に案内して頂いた。茅葺門、植栽、敷石について、建設当時のイメージができるような説明があった。庭園については起伏の変化、コウヤマキの円錐形の形、軒下まで延びる芝生の貼り方が洋風庭園の特徴であるとのことだ。復元工事で移植・



フランス式庭園のチャボヒバとヒマラヤスギ

補植したコウヤマキだが、静岡県久能山の東照宮・唐門脇、日光東照宮の墓所、水戸徳川家の祖徳川頼房の墓所に共通してコウヤマキがある点から、徳川家と何らかの関連があるのかもしれないとお話だった。

庭園西側はアオギリの間に縦のフレームがぽっかり空いている。富士山を借景にしたのではないかと思われるが、残念ながら今は金町の高い建物に阻まれてよく見えない。「東屋からは富士山が見えます」と説明し、東屋へと向かった。

東屋の 4 本の柱は皮を剥いだ節のある針葉樹の柱だったようだが、新木場の材木商に古写真を見せて当時と同じような材を探してもらったところ 2 本だけは同様の柱を設置することができたという話があった。今後は当時あったベンチ(縁台)の復元をしたり、隣の園芸学部との連携を進め、戸定が丘のイメージアップをしていきたいと語っていた。

昼食後、ふりかえりの時間に参加者の意見を聞くと、ほぼ全員が戸定邸を高く評価していた。住まいを訪ねたところ、遠くは群馬県館林市、茨城県取手市と遠方からも参加してくれたことが分かった。



アオギリの向こうには遠く富士山も

解散後も戸定邸内部の観覧を希望する方が 60 名を超え、駐車場の売店で徳川將軍珈琲を楽しんだ方も多かったようだ。

※徳川將軍珈琲:昭武の兄・慶喜が飲んでいたコーヒーを曾孫の徳川慶朝氏が焙煎し現代に再現したコーヒー

戸定邸復元工事をふりかえって

徳川昭武がパリ万国博覧会で世界デビューを果たした記念すべき 1867 年から 150 年。戸定邸庭園の復元工事に関わった松戸市役所公園緑地課 木原茂課長補佐、木村高德主幹に、おはなしを伺いました。

庭園の復元工事は、松戸市総合計画の第 4 次第 5 次実施計画に則り行われました。平成 27 年には設計を、平成 28 年、平成 29 年度工事を行い、平成 30 年 5 月 30 日に完成記念式典を行いました。戸定歴史館の斎藤洋一館長、千葉大学の藤井英二郎名誉教授他、松戸市戸定邸保存活用審議委員、設計コンサルタント、工事担当の会社、公園緑地課が関わりました。

戸定邸庭園の復元に大きな役割を果たしたのは文献資料と徳川昭武の撮影した写真でした。昭武は写真が趣味で、戸定歴史館に保存されている数千点の写真から庭園の写真を選び出し、一点ごとに、撮影地点、アングル、季節、天候、樹種の確認、樹形、およその樹齢、園路や飛び石、東屋、生垣等の位置など確認作業を行いました。

樹木については、植わっていたことを示す平面図、植栽図が見つからず、写真等の資料を元に樹木の位置を平面図に落としました。戸定邸庭園の特徴であるアオギリ、コウヤマキ、アカマツについては樹木の模型を現地に配置して何度も位置をシミュレーションし、位置を決定しました。また実物の樹木を配置した後に微妙な差異を発見し交換することもありました。

コウヤマキとアオギリ

庭園に何の木が植えられていたのかは昭武の写真から、大広間から見る庭園の南側にコウヤマキが 8 本、西側にアオギリが 10 本あることが分かりました。アオギリはすべて市内のアオギリ公園から移植し、コウヤマキのうち一本は市内の篤志家の方から譲り受け、その他、アカマツ、ソメイヨシノ、サルスベリ、ヤマザクラ、オオシマザクラなどを購入しました。

掘り返して分かった園路

戸定邸庭園には当時園路がありました。工事前は芝生の中に埋もれてしまい見えない状態でした。これを復元するにあたって、芝生広場の掘削調査を行い園路の位置を特定しました。また、地盤面は約 10cm 高くなっていることが分かりました。これは芝生の目土を繰り返した

結果だと推定されました。庭園を掘り返し、当時の高さに復元し、園路をよみがえらせました。

のちの時代に植栽された樹木の大半は復元工事で処理しましたが、庭園内でも名物になっていた戸定黄梅は駐車場に移植して梅の花の季節に花や香りを楽しんでもらうことにしました。

樹木の運搬には、近隣の方のご協力をいただき、公園の一角を一時通行止めにして 10 t トラックを運び入れ、16 t クレーンで樹木を下から吊り上げ搬入しました。

東屋の復元

東屋の復元工事にあたって、復元された場所には福島県学生寮がありました。平成 24 年に福島県から買い取り、今回の工事で既存のブロック積み擁壁等を撤去して新たに擁壁を整備し、当時の急峻な地形と谷筋を復元するとともに、その上に東屋を復元しました。スカイツリーはもちろんのこと富士山も見える眺望です。

戸定が丘歴史公園は庭園が新しくなり、東屋も復元しました。ご来場の皆さんに眺望の広がった戸定が丘歴史公園を楽しんでいただくことが担当した者としての願いです。



自然がいっぱいの「甚左衛門の森（じんざえもんのもり）」

甚左衛門の森の会 岩下 正光

甚左衛門の森は J R 武蔵野線の東松戸駅と市川大野駅のほぼ中間に位置し、松戸市南部から市川市に連なる梨畑に隣接する 0.9ha の、落葉・常緑混交林で一部マダケも混じる変化に富んだ森です。

◆会の成り立ち

松戸市が主催する、「里やまボランティア入門講座」の 2016 年度（14 期）受講者を中心に結成され、現在 10 名の会員が松戸里やま応援団のメンバーとして、活動地を地権者の屋号に因んで「甚左衛門の森」、会の名称を「甚左衛門の森の会」とし、2017 年 6 月から活動を始めました。

◆森の状況と主な活動

森は主要道路に接しているため、トタン板柵内に不法投棄されたゴミが散乱し、長年手付かずの状態であったため雑草が繁茂し、立枯れ木も多く見られました。

会では、里やま応援団の仲間の協力も得ながら不法投棄ゴミの撤去を実施していますが、不法投棄は後を絶た



全員写真—かぼちゃの木を囲んで—

ず、イタチごっこの状態が続いています。森の周囲を整備し、綺麗にすることで少しは防げるのではないかと奮闘中です。

現在、雑草木・竹藪の刈払・伐採作業、立枯れ・倒木の除去をし、観察・作業道の整備、周辺柵の整備を行っていますが、活動開始から 1 年 4 カ月ほどで、整備完了まではまだまだ長い道のりです。

また、会では森の整備に必要な資機材を揃え、森の保全・活性化を図るため、国及び県の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の交付金及び松戸市の「市民活動助成事業」の助成金を受けて、樹木・竹林の伐採・整備を計画的に進めているところです。

◆今後の活動

交付金・助成金事業制度を活用しながら、整備の数値目標を設定し、定期的に行われるモニタリング調査により森林の状態を確認しながら、森の整備・活性化を図っていきます。



ゴミの収集作業



さらには、今年5月に作成した森の整備のためのゾーニングマップをもとに、順次整備作業を進めていく予定です。

このように森を整備することで、森林に生息する植物や小動物の豊かな生息地としての森を維持すると共に、松戸市民や周辺住民が自然を楽しむことが出来る森としたいと考えています。

また、里やま応援団の一員として、オープンフォレストなどの諸活動に積極的に参加し、市民に対する保全林の紹介や、森の文化祭並びに市民の森への招待を通じて、私たちの活動が広く理解されるよう取り組んでまいります。

併せて、SNS（フェイスブック）を通じての活動紹介なども準備中です。



倒木の処理作業

～しぜんのコラム 39～

カントウヨメナ

『野菊の墓』の舞台は矢切。「民さんは野菊のような人だ」の野菊は、美しさからいうとカントウヨメナがふさわしい。

カントウヨメナは関東地方以北に分布する、いわゆる“野菊”（野生の菊）で、やや湿ったところに生えている。ゲノム解析によるAPG分類では、学名は *Aster yomena* var. *dentatus* となっており、中部地方以西に分布するヨメナの変種という扱い。ヨメナとユウガギクとの雑種ともいわれている。



カントウヨメナ 2018.11.10 野田市三ツ堀

写真は、本当は松戸市内のもの、それも矢切で撮影したものを使いたいところ。しかし、たまたま野田市の三ツ堀に行った折り、前日降った雨のしずくが花弁に残って美しいカントウヨメナの花があったので、これを掲載することにした。咲きはじめてばかりで、花弁の幅が広くて色が濃く、美しい。

『野菊の墓』の矢切地区は、その田園風景と斜面林が松戸の表玄関の景観をつくっている。外環道の開通によって矢切らしさが半減し、さらに松戸インター近くには、大型物流倉庫が建設される計画が持ち上がっている。矢切の田園風景と斜面林は、未来に残すべき、松戸市の財産である。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー48（観察学習会 63）

「矢切の斜面林と初詣」

矢切の斜面林や江戸川沿いの農地、野菊の墓文学碑、矢切神社を訪ね、みどりについて考えます

2019年1月13日(日) 9:30～14:00 (雨天中止) 参加費：300円 (会員は100円)

集合：北総線矢切駅 9:30 集合 市民活動サポートセンターで解散 持ち物：飲み物、弁当、雨具

問い合わせ 090-2935-9444 (高橋)

その他 歩きやすい暖かい服装でどうぞ